

没後200年



時代を超越する偉人

伊能忠敬

コゴスゴイ!

人物像

地上で距離と角度を量り、さらに天体で角度を測る…。日本全国を測量して歩き、気の遠くなる膨大な作業を丹念に繰り返した伊能忠敬。初めて実測による日本地図をつくりあげる偉業を成し遂げました。没後200年の今、福智とも無縁ではない忠敬を知り、忠敬に学びます。



【いのう ただたか】

伊能 忠敬

[1745-1818]
江戸中期の地理学者・測量家。18歳で下総国佐原の伊能家の養子となり、家運を盛り返して名主を勤めた。50歳で隠居後、江戸に出て天文暦学を学ぶ。のちに全国の実地測量を行い、日本最初の実測地図を作製した。(伊能忠敬像/千葉県香取市 伊能忠敬記念館所蔵)



point 1

50歳から猛勉強!

家業や村の役職で活躍したのちに隠居した忠敬。50歳で江戸に出て天文学や測量術を猛勉強して学問を修め、なんと55歳から全国測量を始めました。

point 4

数千万円支払う!

最初の測量にかかった費用は現在のお金で数千万円。当初幕府が支給したお金は大変少なく、かかった費用の多くを忠敬が用意しました。



point 6

地球一周分歩く!

忠敬が55歳から17年間にまでおよんだ日本全国の測量は全10回。1日40kmも歩き、その合計距離は地球一周とほぼ同じ、約4万kmとなりました。



伊能忠敬が最初に測量してつくった実測図。寛政12年(1800)から奥州街道および蝦夷(えぞ)地の東海岸の測量に着手しました。(寛政十二年測量小図一部抜粋/伊能忠敬記念館所蔵)

point 2

初めて実測で日本地図を作成!

日本全国を測量して歩き、実測による日本地図を初めて完成させた忠敬。現在の地図と比べても遜色ない、精度の高い、美しい地図を残しています。

point 3

全国の名勝地も書き残した!



伊能忠敬の詳細な測量日記には、日本各地を歩く中で出会い、感動した風景についても記され、いくつかの名勝図も残されています。

(名勝図 巖島/伊能忠敬記念館所蔵)

point 5

地球の大きさを求めて測る!

精度を高めるため日本で最初に地球の大きさを計算した忠敬。蝦夷で観測を続け、緯度1度を111kmと求め、地球の大きさを39,960kmと計算。実際の地球の大きさ40,000kmとの誤差は、わずか1/1000という驚異的な結果でした。



伊能忠敬7代目子孫

奥永 渚さん(赤池)



「偉人伊能忠敬翁とその子孫」は、忠敬の子孫が持つ貴重な書籍。



忠 敬の2人目の妻「妙諦」との間に生まれた三女「琴」の子孫である奥永渚さん(赤池)は、忠敬から数えて7代目にあたります。「先祖があまりにも偉大で、子孫という実感がわかりませんが、伊能忠敬の功績を称え、多くの方に知っていただくのはとてもありがたく光栄なことだと感謝しています。50歳から勉強し、地図を作り出した忠敬から“何歳からでもチャレンジできる”という前向きな気持ちを共有できたらうれしいです」と奥永さん。忠敬の子孫の集まりやイベントにも積極的に参加しています。「忠敬が歩いた道をたどると感慨深いですね。いつか将来、忠敬が見てきた景勝地も巡ってみたいです」と先祖に思いをはせました。

先祖が歩いた道 見てきた景色を 巡ってみたい



忠敬の測量日記にある「金田村」の記述にゆかりある島津屋敷の近くで。

赤池会所跡

江戸後期から金田盤の船庄屋を務めた島津家(人見駅付近)。弘化元年(1844)、小倉藩は金田村と赤池村の境界付近に「赤池会所」を設立。赤池炭として若松へ運ばせ、石炭の採掘・販売を藩の事業としました。(出典:田川産業経済大観)

